







2016-12-2マンツーマン推進実態調査課題まとめ

運営

ルール策定

いつまでやるのか、東京オリンピックまでかという声がある

日本バスケットボール競技規則に記載して取り組むことはできないのか

ルールブックは必要。指導者は「書いていない」事を理由にグレーな部分を増やしてくる。指導者のあり方を指導しなければいけない。

ルールブックに書いていないことで罰則を与えるのが本当に正しいのか疑問。

基準規則の改正については、改正の意図(想定したシチュエーション)が分かると指導者に対して説明しやすい

地方ルールの一人歩き

ブロック内県での温度差

組織化・予算

組織作りの課題、コミッショナー運営部など

コミッショナーの旅費や謝金はどこからも出せない

ブロック

県

コミッショナーを配置してもよいという通達=勝手につけるという解釈のため費用が出せない

協会に予算がなく、会場費や役員費がない

県協会の理解の元、県ミニ連と中学校の連携をとりながら選手を育成する必要がある

ミニ中学レフリー連携

審判との連携部分

ミニと中学のすりあわせについて差を感じている

例:ミニはバスケットの入り口としてやや厳しく実施、中学は選手の頑張りをある程度認めるなど

ミニで行っている解釈と中学の解釈が違うように思える

大会運営

県協会や中体連主催でない大会での実施が少ない

試合～審判～コミッショナー～試合と続いてしまう場合があり割り当てが難しい

多くの大会がチャンピオンシップであり、勝利しなければ次の大会に進めない場合が多い。勝ちにこだわった指導になる。大会のあり方から考えるべき。

上位チームよりも下位チームの方が問題が多い

大会運営で人員が不足すること

コミッショナーを配置できるほどの人員が地方にはいない

地区は厳しい

代表決定戦のみおいている実情

チーム帯同とした場合チームスタッフ人員により難しい場合がある

文句・クレームが増えている。対処が大変。

外部指導者

外部指導者の理解不足が多いように思われる

専門外の教職員に見てもらっているチームへのケア

マンツーマンのことを理解できていない人が多く不安を感じていたり、理解することができない選手が不安になっていること

2016-12-2マンツーマン推進実態調査課題まとめ

コミッショナー教育

赤旗の対応

全中でも旗が揚がらない状況が多くある 基準規則が全国に徹底して伝達されていないと感じる
 判定基準が統一されていないこと 基準規則の解釈が指導者によって違ったりすることある 統一した見解をきちんと伝達する必要がある
 規則違反を取り上げる時間帯が遅いことがある。 コミッショナー研修が今後も継続的に必要
 急にディフェンスの質が変わることがある
 赤旗を掲げる基準の不明瞭さ 早い時間帯で旗を掲げて指導するがよいのか、できるだけ流れを止めずにプレーをさせる意識で判定した方がよいのか
 赤旗を掲げるタイミングにばらつきがある 講習会の実施が必要
 赤旗のフリースローで逆転の試合がある
 勝敗が影響する試合においてコミッショナーの基準の違いの不満が指導者から出ている コミッショナーによりとらえ方が若干違い、基準が明確に揃わない

スケジュール

推進の理解や協力は得られるようになってきたが、コミッショナー育成に時間を新たに取れない

現場の課題

指導格差の広がりが見られる 地区による推進普及および実践において
 年齢の若いコミッショナーが年配のコーチに対して改善の指導ができない 声かけ、旗を掲げる勇気がない

ミニと中学の基準

ミニと中学の旗のあげ方に違いがある
 中学とミニの基準や実施状況が違うのか

育成方法論

映像資料の必要性
 マンツーマン技術や基準規則に精通するマンツーマンディレクターやコミッショナーの育成が急務
 コミッショナー育成が進まないこと
 コミッショナーを配置したモデルゲームがあれば、動画として配信して頂きたい
 コミッショナー育成 人によって差があること
 悪さを探してしまうこと
 文書だけの過渡では様々な解釈がなされてしまう恐れあり
 指導者への伝達講習が最優先。

2016-12-2マンツーマン推
進実態調査課題まとめ

ディフェンス

トラップの解釈

トラップの質問が多い
どこまでが認められ、どうなったら違反なのか
トラップ終息の定義

ゾーンプレスのなディフェンスをするチームディフェンスの明確な違いをトラップのあり方を記載して示すべき

やみくもにトラップに移行とするが故に、間に合わず途中で止まったりローテーションミスが起こっている

ミニバスは1~6年生と一緒にゲームを行うのでマッチアップに大きな差が生まれる場面もあり、別な課題も生じている

1年~6年生混在

ミニでは経験の浅い子がマークマンを見失いヘルプポジションに行ってしまう状況が多く見られる

マンツーマン=1対1=ヘルプはダメという間違った認識が今後増加することを危惧している

どのようにマンツーマンディフェンスを行ったら違反にならないかという問合せが来る

基準規則がオフェンス側のプレーを予測してディフェンスを考えるプレーを制約している気がする

現場の課題

中学ではレベルが上がるとバスケットボールの理解力のある選手が罰せられる傾向にある

危険を感じて早めにヘルプにいけるようにポジションを取ることが基準規則違反になりがちだが、これを罰することはおかしいと感じている。

勝敗にこだわり、罰則がないからゾーンに近い守り方を選択する場合あり

完全にドライブ警戒のオフボールディフェンス
エース対策でヘルプだけ考えるポジション取り

ヘルプサイドから寄りすぎている場面がよく見られるが、ゾーンディフェンスなのかマンツーマンなのか曖昧である

動かないヘルプサイドのオフェンス

ボイスの普及が難しい

ゾーンより動かない指さし、首振りだけのマンツーマンディフェンスが見られる

オフボールでヘルプの意識が強く、ボールマンに近い位置取りをするチームが見られる

ハーフコート

多く見られる問題場面は、マークマンを見失ってパスカットを狙うことに中止してしまうケース、

中学では首振りをなくして3線ポジションを取ることがなかなか徹底できていない

ノースクリーンの場面でマークマンを代わってしまうケース

2線の位置取りをどこまで認めるか ハーフコート

オールコートのゾーンプレスは禁止する必要がないのではないか

激しいゲーム展開が少なくなった
これで競技力が上がるのか疑問

4ピリオド負けているチームは追いつくべくオールコートのディフェンスをする。ダブルチームがゾーンプレスに見えることがある。旗を揚げにくい

フルコートプレス

2-2-1の形になることをゾーンプレスだと捉えてしまう指導者が多い

マンツーマンプレスの判断の難しさ

2線の位置取りをどこまで認めるか オールコート

2016-12-2マンツーマン推進実態調査課題まとめ

オフェンス

アイソレーション

能力の高い選手の1対1となるようなオフェンスパターンが多く用いられている

継続的なアイソレーションオフェンス

勝利至上によりアイソレーション戦術を多用し一部の選手にしかオフェンスをさせないなど育成にふさわしくない場面も見られる

アイソレーションオフェンスが多い

個の能力を高めるために始まった制度が、能力に優れた選手だけがボールを持ちその能力を伸ばしているだけのチームあり

オフェンスの課題

ボールの保持時間が増えたように感じる

シュート力のないプレイヤーがアウトサイドに出た場合、マッチアップは引き気味になる。これも基準規則違反だが競技力向上の点ではオフェンスプレイヤーを指導すべきと感じる

オフェンスのレベルが低いため、マンツーマンに見えないディフェンスが見られる。オフェンスの向上が必要

個々のスキルアップの前に安易にスクリーンプレーを多用する事で1対1を有利に進めようとする指導が見られる

指導者教育

目的意識

個の育成、1対1に強いプレイヤーの育成が大きな目的であろうが、その目的が伝わっていない。

マンツーマンの推進と育成の精神に反する問題

マンツーマン推進の目的を指導者全体に理解を得るのに苦慮している

選手・指導者共にマンツーマンの意識が向上していない

明らかなゾーンがなくなっただけ

オフボールのヘルプサイドの選手は指さしすれば大丈夫と考えている

指導者もどのような練習をしていけば改善できるか勉強不足である

規則の抜け道を探す

マンツーマン意識は向上しつつあるが、規則の抜け道を模索する指導者の話も聞いている

指導者のモラル向上 抜け穴を探すような指導者がいる

専門外顧問

中学校の部活チームには専門の顧問がない場合、あまり伝えられない現状あり

周知不足・理解不足

指だけ指していればよいと考えている指導者

指導者が基準規則を理解していない場合が見られる レベルアップ必要

基準規則の理解・伝達が行き届かなく選手への指導がしきれていない状況あり

積極的に勉強して指導している指導者がいる反面、その逆の指導者もいる

まだ自分なりの考えでマンツーマンディフェンスの指導をしている。基準に沿った指導のために指導者講習の機会を増やす

指導者によってマンツーマンの解釈が違っていること

勝利至上主義

戦術を用いて目先の勝利を追う指導者の姿勢あり

勝ちにこだわり能力あるプレイヤーだけにボールを持たせることがマンツーマンの推進なのか疑問

保護者教育

保護者への意識付けが必要である